

～ 共感する～

# symPathy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL.05



## Contents

① PTの現場  
宮崎リハビリ最前線  
小児リハビリの現場から



② 生涯学習委員会  
研修レポート



③ ブロック活動報告

④ 変形性膝関節症に対する  
PTワンポイントアドバイス

⑤ 第46回日本理学療法学術大会  
進捗レポート その1







Physical  
Therapist

# P.T.の現場

宮崎県内のリハビリテーションの現場で、理学療法士として特化した仕事を  
されている皆さんにお話をお聞きしていく企画を立てました。  
今回は、小児領域を専門にリハビリテーションに日々取り組まれている、  
宮崎市総合発達支援センター 奥野 直さんをお尋ねし、お話を伺いました。

## Q1 奥野さんが、小児領域に 対してのリハビリに取り組み たきっかけは何でしょうか？



「ずばり、「子ども好きであったこと」と、小児施設で臨床実習をしたことが原点です。実習の10週間、施設内の図書室をお借りし、学生の居室として使わせていただいていた。入所されている子どもさんとは、24時間一緒に生活でした。沖縄の施設だったのですが、台風で施設が休みのときでも、入所されている子どもさんとは病棟でよく遊んでいましたね。就職は絶対この施設だと決めていたのですが…。いろいろとありまして、宮崎で小児分野に携われる施設への就職を希望し、前任の病院に就職させていただきました。

前の職場は、公的な医療機関であったため、他県への転勤の話もあったのですが、17年間宮崎で取り組んできた重症心身障がい分野の経験を、宮崎で生かしたいと考えていたところ、発達支援センターが開設されることを知り、現在に至っています。

## Q2 こちらの施設の簡単な紹介と どのような方が利用されて いるか教えてください。

宮崎市が指定管理者として選定し運営を委託した、宮崎市社会福祉事業団が運営する市立民営の施設で、肢体不自由児通園施設(定員20名)・知的障がい児通園施設(定員20名)・生活介護施設(1日利用定員20名)の通園部と、肢体不自由児通園施設に併設された診療部があります。

診療部は、小児科のセンター長をはじめ、非常勤小児科の医師2名、精神科、眼科、耳鼻科、難聴外来、整形外科といった各科の先生方と、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士・視能訓練士・看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・保育士などの専門職が働いています。

外来患者さんの約9割は、軽度発達障がいや、広汎性発達障がい等の特徴を持つお子さん達で占められ、残り1割ほどが運動発達に問題を持つ理学療法の対象となられるお子さん達です。



## Q3 奥野さんの一日の仕事内容 それを継続していく上での 秘訣を教えてください。

朝は、通園や通学前のお子さんを中心に理学療法を実施し、10時くらいから15時ころまでは、就学前のお子さんや就学を終えられた成人期の重症心身障がいの患者さんの理学療法、15時から17時半頃



までは、通園・下校後のお子さんの理学療法を行っています。

理学療法の対象となられるお子さんの半数近くは、重症心身障がいといわれる状態のお子さんです。発達支援センターがオープンした平成15年から3年間で、理学療法を実施していた8名の患者さんが亡くなりました。ほとんどが直接、間接の違いはありましたが、呼吸器のトラブルが原因ではないかと推察されました。

以前から発達障がい分野のお子さんに対する、呼吸理学療法には取り組んでいたのですが、このときほど在宅の患者さんに対する呼吸ケアの必要性を強く感じたことはありませんでした。現在では、呼吸理学療法に対する取り組みが、発達支援センターの大きな柱の一つです。(3名の理学療法士のうち2名が呼吸療法認定士の資格を有しています。)

継続の秘訣は、センターを利用されるすべての方に、「健康で充実した生活を送っていただきたい」という強い思いを持ち続けることでしょうか？

## Q4 理学療法士として努力され ているところは？

以前の職場では、病院施設の中で、疾患や障がいにしか目を向けて仕事をしていなかったと反省しています。今の職場





# 宮崎リハビリ最前線 小児リハビリの現場から

に就職し、同僚の社会福祉士等の福祉職と一緒に仕事をする中で、「生活支援を行うこと」の本当の意味を理解できたのではないかと思います。

理学療法士として、当然のことながら理学療法の知識技術の向上を目指しつつ、福祉を支える職種としての知識の充実も必要と考えています。

周囲へのアピールも考えて資格の取得に取り組み、特に「障がい者自立支援法」の施行の際には、その理解のために、自立支援法のモデルとなっていた介護保険の学習を進め、遅まきながら「ケアマネジャー」の試験にも挑戦しました。

## Q5 やりがいを感じる時は、どのような時ですか？



やはり笑顔を見ることができたときでしょうか、お子さんは理学療法の場面では笑顔ばかりということは難しいのですが、受付ロビーや、町でお見かけした時に、楽しそうに生きいきと動かれている姿をお見かけすると、少しはお役にたてたのかな、とほっとしますね。

重度重複障がいを持つお子さんを抱え、絶望の淵にいるご家族への支援場面でも、ご両親が子どもさんの小さな変化に笑顔をごほされる姿を目にする時、幸せのおすそわけをいただいた気分になります。

## Q6 奥野さんにとって理学療法とは？そして後輩理学療法士に一言お願いします。

自己表現の手段でしょうか？目の前にいるお子さんに何かをしてあげたい、家族を支えたい、何とかしてあげたいという気持ちを実現できる、私にとっての、唯一の手段だと思います。

自己表現の一つとはいえ、理学療法士としての仕事を重ねれば重ねるほど、その難しさと自分自身の力のなさを感じているところですが、若い理学療法士の皆さんにも、常に一歩前へ足を踏み出す勇気と気概をもって、理学療法という仕事に取り組んでいただけたらと考えています。

## Q7 奥野さんが今熱中している事は何ですか？

農業ですね！両親がやっていた畑仕事を手伝うくらいのところから初めて、子どもたちが独り立ちしたことをきっかけに、本格的に取り組んでいるのですが、主体的に取り組むことで農業の魅力に惹かれています。

もともと、アウトドア派ではあったのですが、青い空と太陽の下で、流れる雲を眺めながら汗を流すという、理学療法とはまったく違った時間の過ごし方が最高の



気分転換になります。

会社勤めをしていた家内も退職して、両親を助けて農業をしてくれているのですが、夫婦で同じ仕事をするのもいいものですね。今はまだ、家庭菜園より少し本格的という程度ですが、定年退職後の生活が楽しみです。

## Q8 最後に、PTとして父として、そして夫として、仕事と家庭を両立させる秘訣を教えてください。

子育ては終わってしまったのですが、仕事と家庭の両立の秘訣は、「どちらも本気で！」ということでしょうか、子どもが小学生くらいのときは、PTA活動や子供会活動などにも積極的に参加していましたね、誰かに任せるのではなく、自分が主体的に子どもの行事や、子どもの時間に関わることで、子どもとの会話もたくさんあったと思います。それに伴い、必然的に夫婦の会話も多かったですね。

家庭が充実していると、仕事の張り合いもあります。これが、家庭と仕事の両立につながっているのだと思います。

## 宮崎市総合発達支援センター

### 奥野 直さんプロフィール

#### 略歴

- 1963年 宮崎市恒久に生まれる。
- 1985年 理学療法士免許取得
- 1985年 国立療養所宮崎病院に勤務
- 2002年 宮崎市社会福祉事業団に勤務
- 2003年 宮崎市総合発達支援センターに勤務
- 現在に至る

#### 資格等

- 理学療法士
- 福祉用具プランナー（平成16年）
- 介護支援専門員（平成18年）
- 3学会認定呼吸療法認定士（平成19年）



## 平成21年度 第2回骨関節系理学療法研究会研修会報告

テーマ：「筋膜に対する理学療法の実践と臨床推論」

講師：外科馬場病院

小牧 順道先生

じんごあん整形外科内科クリニック

白尾 泰宏先生

期 日：平成22年3月13日(土)・14日(日)

平成21年度第2回の研修会を、上記お2人の先生をお招きし、「筋膜に対する理学療法の実践と臨床推論」というテーマで会員42名、非会員1名の参加を得て、研修会を開催しました。小牧先生は、当県士会で4回目の講演となるのですが、毎回セミナーの最初に「クリニカルリーズニング」に関するお話を頂いております。今回は、主に「クリニカルリーズニング」に関する部分を白尾先生にお願いし、筋膜に対するアプローチの基礎～臨床に関する部分を小牧先生にお願いしました。筋膜に対するアプローチは、運動連鎖を考えるのみでなく、ヒトの体に作用する力学的情報や環境に適応していくための身体の動きに関わる情報を統合して、姿勢保持や動作を統合するといった視点から、非常に重要な内容であると言えます。ヒトの体を、機械論的に論じるだけでなく、ひとつの身体機能システムとして捉えることの重要性を認識させられた研修会でした。今後の理学療法の発展のために、さらに発展させていかなければならない、重要な考え方であると考えます。

骨関節系理学療法研究部会 部長 常盤 直孝



## 平成22年度 第1回運動器理学療法研究会報告

テーマ：「運動器疾患に対するクリニカルリーズニングの実践」

講師：新潟医療福祉大学 保健医療技術学部 理学療法学科 準教授 亀尾 徹先生

期 日：平成22年7月24日(土)・25日(日)

会 場：宮崎県立宮崎病院

今年度第1回の研修会を、60名の会員の参加を得て県立宮崎病院で開催いたしました。

「臨床推論」という言葉は、ジャーナル等で最近よく目にするようになりましたが、その本来の意味が臨床家に伝わり、実践されているかという点、大変疑問が残ります。もっと本来の「臨床推論」の意味をしっかりと伝えていくためにも、テーマを「臨床推論」ではなく、あえて英語のまま「クリニカルリーズニング」と表しました。講師には、この分野で全国で活躍されている、新潟医療福祉大学の亀尾徹先生をお招きし、クリニカルリーズニングの臨床実践について御講演頂きました。亀尾先生は、クリニカルリーズニングだけでなく、整形外科的徒手療法でも日本の第一人者の先生でもあり、サッカーJ1の、あるチームにも理学療法士として3年間関わってきた実績のある先生です。講演の中でも、臨床の様々な場面を想定した内容がふんだんに盛り込まれ、非常に意義のある研修会になりました。来年の全国学術大会でもクリニカルリーズニングをテーマとした講演を開催予定ですが、亀尾先生にも通訳として参加頂く予定です。



運動器理学療法研究部会 部長 常盤 直孝



## 平成22年度 内部障害系理学療法研究部会研修会報告

- 第1回 テーマ：「リスク管理に基づいた理学療法～運動療法の進め方」  
講師：兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授 高橋 哲也先生  
期 日：平成22年6月26日（土）・27日（日）
- 第2回 テーマ：「呼吸理学療法2010」～基礎から呼吸理学療法の実際まで～  
講師：兵庫医科大学病院リハビリテーション部 眞淵 敏先生  
期 日：平成22年9月25日（土）・26日（日）



平成22年度は、2回の研修会を企画・開催することができました。

第1回は平成22年6月26日～27日に開催。兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授 高橋哲也先生を講師にお迎えし「リスク管理に基づいた理学療法～運動療法の進め方」をテーマに受講者数95名（会員：90名、非会員：5名）の参加者で開催しました。1日目は急性期の理学療法・リスクマネジメント～運動療法の進め方まで、症例を提示したワークショップ等を変えながら、わかりやすく丁寧に講義して頂き最近のトピックスについても学ぶことができました。2日目は実技実施や胸部レントゲンを実際に提示され一つ一つ説明して頂き、レントゲンの診かたについても知識を得ることができ、日頃私たちが理学療法を進めていく上での重要なリスク管理、また、急性期に関わらず呼吸・循環・代謝の関連性の大切さ、運動療法（レジスタンストレーニングなど）の方法を教えてくださいました。

第2回は平成22年9月25日～26日に開催。兵庫医科大学病院リハビリテーション部 眞淵敏先生を講師にお迎えし「呼吸理学療法2010」～基礎から呼吸理学療法の実際まで～をテーマに受講者数68名（会員：64名、非会員：4名）の参加者で開催しました。1日目は呼吸リハビリテーションの目的・効果・有効性の根拠等を「COPDの急性増悪時の理学療法」の中で症例を通しながら分かりやすく臨床にも直結する講義で、今後の臨床ですぐにでも役立つことができる内容でした。2日目は実技中心で呼吸介助方法・排痰手技などを指導していただき、参加者同士がお互いに介助方法を確かめ合いながらテクニックを習得することが出来たのではないかと思います。

今年度も第1、2回研修会共に、応募してすぐに定員超過となり、申し込みいただき誠にありがとうございました。近年の内部障害に対する参加者の意欲・意識の高さを痛感しています。また今年度より新人及びこれから呼吸理学療法を始める方への入門編として平成22年5月より第1～10回を通し、呼吸理学療法勉強会を開催しており、こちらの方も毎月テーマを決め参加者と共に勉強に励んでいます。今後も皆様の意見を出来る限り反映させ、よりよい研修会・勉強会ができればと考えております。今後も内部障害系理学療法の発展・レベル向上のため皆様のご協力を宜しくお願い致します。

内部障害系理学療法研究部会 部員 今村 貴志



## 平成21年度 生活環境支援系理学療法研究部会研修会 報告

- テーマ：「住宅改修における基礎知識」～制度・図面の見方・捉え方～  
講師：（社）宮崎県建築士事務所協会会長 甲斐 孝明先生  
期 日：平成22年3月13日（土）・14日（日）  
会 場：JA AZMホール 別館202研修室

平成21年度の当部会研修会を、（社）宮崎県建築士事務所協会会長の甲斐孝明先生をお招きし、参加者34名により、上記内容にて開催致しました。

研修会内容としては、住宅改修に必要な一般住宅の建築に関する基礎的な内容（構造・図面の見方・寸法）、住宅改修を行う場合の制度の理解、住宅改修の捉え方やポイントを中心に講義して頂きました。研修会後半では、日常業務で活かされるようワークショップによる症例検討を行い受講生同士による活発な意見交流を図りました。また住宅改修で多い手すりの設置を、取り付け位置（動作分析・設置の高さや長さ）の検討を行いながら、実際に工具を使用し全員に経験して頂きました。

研修会終了後のアンケートでは、「住宅改修時における図面の見方や視点がより広まった」「ワークショップで受講生同士の意見が聞けてよかった」「工具を使用しての手すりの取り付けが難しく感じたが、初めて経験することができてよかった」などの意見や感想がありました。

今後も当部会では皆様のご意見を頂き、生活環境支援系に関わる内容の研修会を企画開催し、リハビリ専門職や関係職種、及び一般住民を含めた多くの方に参加して頂けるよう、より一層の充実した部会活動に取り組んでいきたいと思っております。

生活環境支援系理学療法研究部会 部長 横尾 和孝







都城市郡ブロックの活動は「人に優しく、街に優しく」をモットーに、会員を中心にさまざまな活動を行っています。現在130名ほどのブロック会員で、特に若い力がブロック活動を支えてくれています。平成22年度上半期活動では毎年恒例の新人歓迎を行い、89名(16施設)内20名の新人を迎え入れ、個性あふれる一発芸などで会場を盛り上げて頂きました。職場対抗戦・個人戦で競うボウリング大会では超豪華景品を巡っての熱いバトルが繰り広げられ、会員の物欲に驚かされました。本年度も豪華景品に釣られて参加してしまう企画を練っています。研修会の方では、これまで口蹄疫問題により自粛していた活動を再開し、再び活気が戻って来ています。主に症例検討会を実施して、ディスカッションの場や教育プログラムの読替も可能としています。今後も、会員からのいろいろな企画に耳を傾け、ブロック活動を盛り上げていきたいと考えています。そこには、セラピスト間のネットワークがその街のリハ機能の発展につながるという思いがあります。それを無駄にすることなく、「都城市郡ブロック」が今後もますます充実し、宮崎県理学療法士会ならびにリハ医療の発展に貢献できる事を願っています。



都城市郡ブロック長 柚木 直也



## 膝関節の痛みに対する

# ワンポイントアドバイス

膝関節の代表的な疾患には、変形性膝関節症、特発性大腿骨顆部骨壊死、靭帯や半月板損傷などがあります。今回と次号では、その中でも変形性膝関節症の症状と痛みに対するアドバイスを行っていきます。変形性膝関節症とは、膝関節にある軟骨の磨り減りや筋力の低下が要因となって、膝の関節に炎症が起きたり、関節が変形したりして痛みが生じる病気です。中高年の女性に多くみられ、膝が外側に変形する内反変形(O脚)が多い傾向にあります。

### ■実際の膝の写真



### 膝関節周囲の筋力訓練



写真の状態にして2~3秒止めます。再び足を下げて、また写真の状態まで上げます。ちょっときついところで止めると効果的です。腰などが痛い場合は訓練を中止して下さい。



膝の下に入れたタオルを押しつぶすように膝を伸ばします。その状態にて5秒程度止めます。タオルの厚さは力が入りやすい太さで行いましょう。この運動も、痛みを伴う場合は中止して下さい。

それぞれの運動を10回、2~3度繰り返して下さい。それを朝と晩に分けてするとより効果的です。筋力訓練は2~3カ月ぐらい継続して行うことが大切です。無理せず、気楽にテレビでも見ながら日常生活の中に取り入れてみてください。



# 第46回 日本理学療法学会進捗レポート

平成23年5月27日(金)~29日(日)に、「第46回日本理学療法学会」が本県で行われます。

平成19年12月9日に行われた日本理学療法士協会理事会において、本県での学会大会開催が決定して早くも3年が過ぎようとしています。また、開催決定に至るまでには足かけ4年の時間を掛け準備を進めていますので、誘致を決定してからは7年の月日が経とうとしています。

現在、武田禎彦会長を大会長とし準備委員会を編成、事務局・学術局・渉外局・運営局に分かれ協会と連絡を取りつつ開催に向けて準備にあたっています。

今回、「リハビリテーションの未来図 ~理学療法は社会にどう貢献すべきか~」を大会テーマとし、理学療法士の未来に向けて、個々の取り組むべきこと・進むべき道の探究・将来を読む意識を持ち、個々の将来を思い描いていただけるような学会に、そして理学療法は社会(故郷)に対し、「どのような貢献ができるのか」を考えられる大会にしたいと考えています。



今回の大会の特徴としては、演題の発表形式を ①口述発表(一般)、②ポスター発表(一般)、③口述発表(特別演題・フリーセッション)、④ポスター発表(特別演題・フレッシュセッション)の4種に分けている点が挙げられます。詳細としては、以下の通りです。

- ①口述発表(一般):従来と同様の口述発表形式となります。
- ②ポスター発表(一般):従来と同様のポスター発表形式となります。
- ③口述発表(特別演題・フリーセッション):60名程度収容の小規模会場で行う口述発表形式になります。演者は50インチディスプレイを前にプレゼンテーション形式での発表を行い、座長と聴き手を身近に活発なディスカッションを行える発表形式としました。
- ④ポスター発表(特別演題・フレッシュセッション):主に臨床業務に携わる経験3年未満の会員を対象とし、1セッションあたりの演題数を一般演題より発表数を少ない5演題とし、座長とのディスカッションを中心に発表を通じて多くを学びたいという方への発表形式となります。

また、大会初日の5月27日(金)には、ウェルカムパーティーの開催を予定しており、渉外局が中心となりご当地グルメや有名アーティストのアトラクションなど関係機関と調整を進めています。

昨年行われた第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会では、1,500名近い参加者がありましたが、今大会は、例年にならって4,000名程度の参加者があるものと考えています。

参加者の皆さんが喜んで頂ける学会にするには、県士会員の皆さん全ての協力が必要です。今後、色々な部局より運営に対しての協力依頼がありますが、多大なるご協力を宜しくお願い致します。



※学術大会の情報は、協会HPにリンクされている学術大会のサイトをご覧ください。  
<http://www.secretariat.ne.jp/jpta46/>

機関誌発行部会 部長/伊藤 和彦(第46回日本理学療法学会 協会担当部長)



第46回 日本理学療法学会  
 The 46th Congress of the JPTA in Miyazaki

2011 5/27 ~ 5/29

大会テーマ  
 リハビリテーションの未来図  
 ~理学療法は社会にどう貢献すべきか~

大会会場  
 宮崎県立大会場 1110号館  
 宮崎県立大会場 1110号館  
 TEL: 0985-48-2829  
 FAX: 0985-64-3600

大会プログラム  
 5月27日(金) 18:00~20:00  
 5月28日(土) 08:00~18:00  
 5月29日(日) 08:00~18:00

協賛機関  
 日本理学療法士協会 日本作業療法士協会 日本物理療法士協会 日本言語聴覚士協会 日本作業療法士協会 日本理学療法士協会 日本作業療法士協会



## 宮崎県理学療法士会ホームページ

http://m-pta.com/

宮崎県理学療法士会 | 検索

新着情報や学会のお知らせなど役立つ情報満載!!  
是非、お役立て下さい。

HOME 一般の方 会員の方 リンク 問い合わせ

宮崎県理学療法士会  
Miyazaki physical therapy association

心と体のサポーターです。

新着情報  
2010/10/21 研修会案内ページを更新しました。(他団体案内分：ポバースアプローチ脳性まひ8週間講習会)

理学療法週間について  
宮崎県理学療法学会  
九州理学療法士・作業療法士合同学会  
第46回日本理学療法学会(2011年 宮崎)  
診療報酬改訂情報  
介護報酬改訂情報

053 133

〒880-2112 宮崎県宮崎市大字小松1119番地8 宮崎リハビリテーション学院内 TEL.0985-48-2828 FAX.0985-64-9600  
Copyright©2006 Miyazaki physical therapy association All rights reserved. サイトマップ | サイトポリシー

## 編集後記

「embodiment(体現化)」

日増しに秋も深まり、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私は、去年からある試みを実現するために日々練習を行ってきました。

ある試みとは、ダンスへの挑戦です。日々理学療法を通して患者さまと身体機能、ADL、QOLの向上のために、姿勢や運動パターンを訓練してきましたが、実際に自分は見本となる姿勢や運動を行っていたのかと考えるようになったのがきっかけでした。

踊りの練習が始まると、身体機能に問題が無い自分の身体が、過剰に力が入りロボットの様な動きとなって鏡に映っていました。

頭でイメージした動きを実際に表現すること「embodiment」(体現化)の難しさを痛感しました。

この経験を患者さまの気持ちに置き換えて訓練を行えるようになり、訓練の提示の仕方や説明など工夫するようになりました。

9月に行われた「えれこっちゃん宮崎」で踊り、楽しく自分なりに表現できたと思います。この祭りを通してみんなで一つの目標に向かってお互いを合わせ前進し達成することの素晴らしさ知り、今後のリハビリテーションにつながる一步になったと思います。